

# 龍源寺報

春彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	
住職 松原信樹	
佛母寺住職 松原覚樹	
正福寺住職 松原行樹	
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryigenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

## 諸行無常といふこと

### ―春彼岸に思う

自然には、四季がある。例えば秋から冬にかけて、もみじの葉が散る。赤いもみじが散って、私達はその散る様を「キレイだキレイだ」と言っ  
て、「美しい」「キレイな紅葉だ」と言っ  
て喜ぶ。もともとの緑の葉が赤くなり散るとい  
う、自然のごく当たり前の諸行無常が、私  
たちの身に実際に降りかかった時、私  
達はどうしても慌てふためいてしま  
う。

高血圧になる、糖尿病になる、癌になる。事件や事故に巻き込まれる。いつ何があつてもおかしくないのが、私たちである。諸行無常の、「行」は、インドの言葉で「サンスカラ」とい  
う。「サンスカラ」は、「現象」のこと  
で、「現象」とは、生まれて死ぬもの。因果関係で成り立つもの。原因と結果で説明がつくものをいう。無常とは、姿や本質がうつろぎ、一瞬といえども同一性を保持することが出来ないことをいう。つまり、諸行は、無常であるから、私自身、いつ、どんなことがあつても何らおかしくないのである。苦というどうすることもできないものの中に、愛別離苦という、愛する者と別れる苦しみがある。愛する者と別れなければならぬ苦しみという

苦を乗り越えるにはどうしたらいいのか。『般若経』では、六波羅蜜(布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧)の実践が在家の方々に説かれる。その中の一番はじめにある布施とは、施すことである。詩人・中原中也は、最愛の息子を亡くし、どうすることもできない無常を受け入れなければならなかった時、奉仕という仏教で言うならば、布施の気持ちにならなければならぬことをうたっている。

愛するものが死んだ時には、自殺しなけ  
ななりません。  
愛するものが死んだ時には、それより他に、方法がない。  
けれどもそれでも、業(?)が深くて、な  
ほもながらふこともなつたら、  
奉仕の気持ちになることなんです。奉仕の  
気持ちになることなんです。  
愛するものは、死んだのですから、たしか  
にそれは、死んだのですから、  
もはやどうにも、ならぬのですから、その  
ものために、そのものために、

(次項へつづく)

奉仕の気持ちにならなければならぬ。奉仕の気持ちに、ならなければならぬ。

中原中也 「春日狂想」

『永訣の秋』 収載 岩波文庫

詩を精読すると、中也は、死をも考えた筆舌に尽くしがたい極限の悲しみに耐えつつ、現実を受け入れ、奉仕の気持ちになって生きること、に救いを求めた。

私は思う、亡くなった方への奉仕とは、その人の分まで、精一杯自分のいのちを生ききることである。そして、その人のことを、ずっと忘れないでいてあげること。思い出した時に、そっと手を合わせていただきたい。

### 新刊案内

横尾忠則著

## 『坐禅は心の安楽死』

平凡社ライブラリー

先住職・松原哲明との対談が収録されています。

## お彼岸法要

左の通りに行ないます。ご家族そろってお参りください。

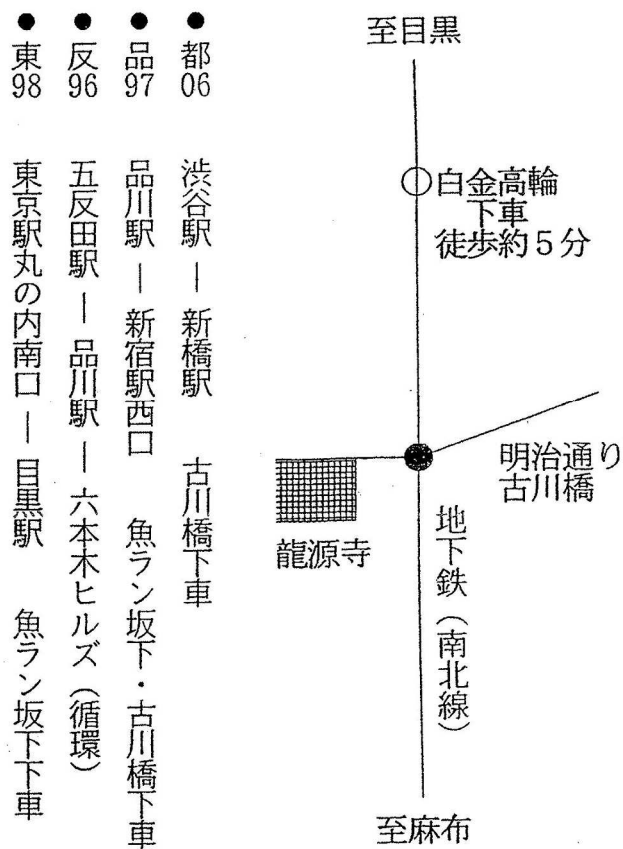
一、三月二十日（午前十一時より）

一、読経

一、法話

一、会費（お布施）

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。



龍源寺観音堂に如意輪観音様を安置

させて頂いております。

納められた皆様の御寄付は観音堂の維持、観音堂周辺の境内整備に充てさせていただきます。お待ちしております。

季節の草花を植え、ご来山いただいた皆様に安らいでいただきたいと思いたす。

又、将来は本堂の裏地を整備して、大般若経を納める経蔵を建立する計画を

しております。

### 哲明和尚三回忌

哲明和尚三回忌法要を、五月二十五日に厳修致します。妙心寺管長・河野太通老師を導師に拜請し、龍源寺総代さんにご参加いただきます。

お檀家様には、七月十日のお施餓鬼の日に、供養のしるしをお渡ししたいと思っております。本堂にお位牌と写真を安置しております。いつでもお参りできますので、御来山いただければ大変嬉しく思います。

### 経蔵建立のこと

龍源寺の裏地に、関東財務局管理の土地があります。皆様のご協力で購入戻す方向で話しが進んでおります。泰道和尚から三代続く境内整備の事業を引き続き私の代でも継承し、将来は、境内の一角に『大般若経』を納める経蔵を建立したいと思っております。

『大般若経』を納める所以は、泰道師・哲明師が、『般若心経』を説き続けてきたことによります。『大般若経』の写経も順調に進んでおります。

### 北軽井沢・日月庵「禅の会」

北軽井沢日月庵坐禅堂にて毎年恒例の「禅の会」を開催いたします。春の日月庵禅の会は、作務（布団の整理・枝打ちなど）・坐禅・そして、ささやかな親睦会を行います。坐禅の時間は、さほどとれませんが、坐禅初心者の方にはよろしい機会かと思えます。万障お繰り合わせの上、是非ご参加いただければと思います。

日時：平成二十四年四月十四日(土曜日)

十五日(日曜日)一泊二日

日月庵に現地集合・現地解散

四月十四日：午前十時、星雲苑研修所集合

※昼食は持参してください。

四月十五日：午前十時頃解散

持ち物：シートとタオル2枚

所在地：群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

日月庵坐禅堂

電話番号 ○二七九・八四・四二〇六

費用 用 宿泊費・食費無料

柳 緑

花 紅

春のお彼岸を迎えます。昨年のお彼岸会は、震災後でしたが、多くの方々にお手伝いいただき、出入りの業者の皆様も、お斎のちらし寿司のために、お米やお野菜をきちんと毎年のように揃えていただきました。どのような時であっても、毎年の恒例の行事を続けていく大切さを改めて思い、寺族一同、気持ちを引き締めた次第であります。▼お檀家様で、お葬式をだされる場合、知っている葬儀社がない方は、葬儀社を紹介させていただきます。いざ、ご家族が亡くなると、なすべき事がたくさんありすぎて、慌ただしいのが現状です。もし、お葬式をだされる場合、僧侶がいなくお葬式ができないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺にお電話を入れていただきたいと思います。龍源寺本堂もしくは、花園会館を使用してお葬式・家族葬・密葬も執り行うことができます。

(本堂・花園会館使用の際は、指定業者となります。) 又、生前のご相談も

うけさせていただきます▼渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守っていただければ、どなたでもこのお墓を使用できます。又、若干ですが、東北寺内龍源寺墓地もございます。ご相談ください▼私自身、書庫の本を整理する毎日です。本を読み思索をし、坐禅をし作務をする。泰道和尚が言っていた、「生涯修行 臨終定年」の言葉を杖言葉とし、毎日を送っています。仏教の勉強は、受験勉強のように「ここまで」という端がありません。だから膨大な量の経典ができあがったのでしよう。学問とは、セクトで細分化されているけれど、結局は一つのような気がする今日この頃です。▼毎月の坐禅会も八十名〜百名のご参加をいただいております。盛会です。日月庵の行事も大切にしていきたいと思います。今年の夏は、坐禅会と仏教講座を予定しております。▼最近、つくづく思うのは、妙になれなれしく、意味の解らないコ

ンピューターの「ネット言葉」といわれているもの。国語を大切にしない国が衰退することは、歴史が教える所でもあります。▼母は、お寺の仕事はもちろん、茶道の先生、佛母寺の護持、民生委員の仕事の毎日を送っています。祖父・父が居たときと同じように、皆様には、お近くにいらしたときには、お立ち寄りいただけたら嬉しいと申しております。母は生家である北鎌倉・雲頂庵で、四月二十九日に九十四歳になる雲頂庵の祖母とお茶会を開きます。お抹茶とお香の席があります。ご参加の方は、龍源寺にご連絡ください。弟の覚樹は、アメリカで教鞭の仕事に就きながら、佛母寺住職として寺務を行っております。もう一人の弟である行樹は、横浜の戸塚で活躍中です。五月二十五日に行われる哲明和尚の三回忌法要の準備を共に行っています。二人とも父親になり、家庭と仕事を大切にしています。▼春彼岸会に皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

(信樹)